

1 はこだて
函館

(北海道函館市)

注目ポイント！

町並み景観、温泉、食、海、歴史文化等、多彩な観光資源が凝縮。
近年、東アジアからも観光地として注目され、函館空港へのチャーター便
が急増。



チャーター便が6便(1,600人)から870便(135,000人)に！
(平成11年度) (平成17年度)



函館山からの夜景

コラム

物流形態の変化や北洋漁業の縮小とともに函館の倉庫業が衰退していくなか、金森商船(株)の渡邊氏(当時社長)は、「倉庫業にかつての盛況を期待できない以上、企業体力のあるうちに倉庫をなんとかしたい」と考え、昭和63年、同社の倉庫群が観光施設に転用され「函館ヒストリープラザ」としてオープンし、函館ベイエリア観光の中核をなす施設に生まれ変わった。



渡邊 恒三郎氏

これまでの経緯

- 昭和63年(1988) 青函トンネル・津軽海峡線が開通、青函博を開催する。
金森商船(株)の倉庫群が観光施設「函館ヒストリープラザ」としてオープンする。
第1回「函館野外劇」が開演する。
西部地区の歴史的な町並みの保全に向けた函館市歴史的景観条例が施行。
- 平成元年(1989) 函館市元町末広町が重要伝統的建造物群保存地区に選定される。
観光都市としてのより一層の飛躍を目指し、国際観光都市宣言を採択する。
- 平成7年(1995) 第1回函館山ロープウェイ映画祭(現:函館港イルミネーション映画祭)を開催する。
- 平成10年(1998) 函館の冬季観光の目玉として、第1回はこだてクリスマスファンタジーを開催する。
- 平成15年(2003) 函館朝市協同組合連合会が、えきに市場に「活いか釣堀」を設置する。
- 平成16年(2004) 函館西部地区をスペインの「バル街」に見立てたイベント「バル街」を開催する。
函館市観光基本計画に基づき、函館市夜景グレードアップ構想を制定する。

主な取り組み

歴史的建造物の保存・整備

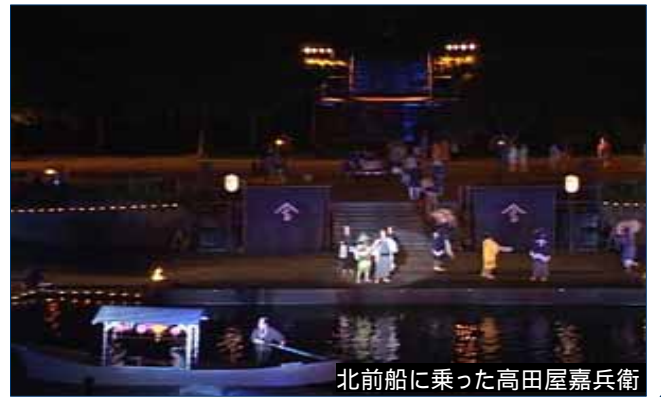
市や建物のオーナー、市民グループなどの多様な主体が、市内に古くから残っていた建物を、街の貴重な財産であると認識し、それぞれの立場から保存活動を展開(金森倉庫や旧函館郵便局のショッピングモールとしての再利用等)。現在、函館の町並みは、最も重要な観光資源として定着。



旧函館西警察署庁舎

市民創作「函館野外劇」

五稜郭商店街の活性化策として、フィリップ・グロード神父の提唱で始められた市民創作野外劇。特別史跡五稜郭を舞台に、函館の史実を題材として毎年1万人以上の市民が参加。近年、旅行会社がツアー商品を組み観光資源として定着。商店街のみならず、函館の重要な観光イベントに発展。



北前船に乗った高田屋嘉兵衛

水産業と観光を結ぶ朝市の取組

函館の豊富な海産物を市民に提供してきた函館朝市。その朝市に、市民のみならず観光客も呼び込もうと、函館朝市協同組合連合会が、観光客を意識した取り組みを展開。釣ったイカをその場で食する「活いか釣堀」を設置したり、湯の川温泉街との間に無料シャトルバスを運行するなどして、現在は年間約200万人が訪れる観光スポットとして定着。



活いか釣堀前

はこだてクリスマスファンタジー

低迷する函館の冬季観光を改善すべく、函館青年会議所が平成10年に始めたイルミネーションイベント。函館港に浮かぶ巨大ツリーと雪と花火の競演が人気で、以来、毎年12月の観光客数は伸び、現在では市の月間観光入込客数約25万人に貢献。



函館港 金森倉庫前のツリーと花火

バル街

函館西部地区を活性化すべく、市民有志がスペインの「バル街」に見立て、お店をハシゴして歩くイベントを創設。函館の新たな観光資源として注目。

問い合わせ先

函館市商工観光部観光振興室観光課

Tel : 0138 - 21 - 3324 <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>